



平成20年11月14日

各 位

会 社 名 中央ビルト工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 西本 安秀
(コード番号 1971 東証第2部)
問合せ先 常務取締役管理統括本部長 安達 圭朗
(TEL. 03 - 3661 - 9631)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成20年5月21日に公表しました平成21年3月期(平成20年4月1日～平成21年3月31日)の通期業績予想を下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 平成21年3月期 通期業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	8,996	631	515	511	24円70銭
今回発表予想(B)	8,692	537	416	397	19円19銭
増減額(B-A)	△304	△94	△99	△114	—
増減率(%)	△3.4	△14.9	△19.2	△22.3	—
(御参考) 前期実績(平成20年3月期通期)	9,134	531	342	348	16円95銭

2. 修正の理由

売上高減収の主な要因は、仮設機材事業の賃貸部門の不振が挙げられる。上期は、改正建築基準法の影響による着工延期により賃貸機材の稼働率が伸びなかった。更に下期は、昨今の景気の先行き不透明感による建設投資抑制の影響が拡大し、上期の落ち込み分を挽回することは、困難であると判断せざるを得ない。その結果、前回開示よりも304百万円下方修正し、8,692百万円となる見込である。

営業利益減益の主な要因は、賃貸部門の落ち込みによる減収に加えて、上期に発生した大口の貸倒損失、退職給付債務の算定において簡便法を採用している為、昨今の株価下落による年金資産の減少による退職給付費用の増加を見込んだ。その結果、前回開示よりも94百万円減益の537百万円となる見込である。

経常利益減益の主な要因は、営業利益減益に加えて、営業外費用として上期に計上したシンジケートローン組成費用が挙げられる。一方、金利が想定よりも低くなり、支払利息が減少する見込である。その結果、前回開示よりも99百万円減益の416百万円となる見込である。

当期純利益減益の主な要因は、上期に発生した特別損失の名古屋工場地盤沈下対策費用が挙げられる。その結果、前回開示よりも114百万円減益の397百万円となる見込である。

※上記業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づいて算定しており、潜在的なリスクや不確実性を含んでおります。実際の業績は、様々な要因の変化により、上記予想とは異なる結果となる可能性もあります。

以 上